

6月1日(金)～3日(日)は入館無料

# 唐古・鍵考古学ミュージアム リニューアルオープン

## 第1室

唐古・鍵ムラの全景をジオラマで展示するほか、弥生時代の環境や生業などをテーマに展示しています。



## 第2室

唐古・鍵遺跡の出土品のうち、特に重要な品々を展示します。魅力あふれる弥生の逸品が並びます。



## 第3室

唐古・鍵遺跡周辺の遺跡、また弥生時代の終わりから古墳時代の始まりをテーマに展示しています。



## 常設展示

6月1日(金) 午前9時～

## 企画展

### 「唐古・鍵遺跡の重要文化財 ～新指定品の紹介～」

新指定重要文化財のうち、常設展示品以外の優品を展示します。

時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）※月曜日は休み

場所 青垣生涯学習センター2階会議室（特別展示室）

## 観覧料（常設展示・企画展）

	企画展	常設展との共通券
一般	200円(150円)	300円(250円)
高校生 大学生	100円(50円)	150円(100円)

※常設展は、6月1日(金)～3日(日)の3日間は無料（6月5日(火)以降は通常料金）

※（ ）内は、20人以上の団体料金。JAF会員は会員証提示で団体料金。



唐古・鍵考古学ミュージアムが6月1日(金)にリニューアルオープンします。3月に新たに国の重要文化財に指定されることが決定した唐古・鍵遺跡の出土品が、所狭しと展示室に並びます。  
今月号では、展示手法を大幅に変え、新しく生まれ変わったミュージアムを紹介します。  
〒唐古・鍵考古学ミュージアム ☎34・7100

# 唐古・鍵遺跡の価値を

## 全国的にPRできる場所に

唐古・鍵考古学ミュージアムのリニューアルに携わった藤田三郎主幹（文化財保存課）に、リニューアルのきっかけや、こだわった点などを聞きました。

ミュージアムをリニューアルすることになった大きな要因は、2つあります。1つ目は、展示品の大半が重要文化財に指定されることになったことです。これまでは壁面展示を多く採用していたのですが、展示品に負荷がかかることや地震対策も兼ね、平面的な展示手法に変更しました。2つ目は、入口部分にあった床下展示の「大型建物の柱穴剥ぎ取り模型」を、この度、開園した唐古・鍵遺跡史跡公園の遺構展示情報館で建物全体の柱穴として一体的に見せるため、移設しました。また、ミュージアムがオープンして13年が経過し、唐古・鍵遺跡の歴史的な価値、すなわち、纏向遺跡（桜井市）との関係などで注目されるようになったことからこの点にも焦点を当てようと考えました。

展示室は、大きく3室に分かれています。第1室は、史跡公園と連携して子どもたちに弥生時代の生活文化を学んでもらう展示にしました。第2室は、重要文化財に指定される1点1点の力強さを表現し、美術館にきたような雰囲気味わえるようにしました。考古学は難しく、わからないといったイメージを払拭し、唐古・鍵の「弥生の美・形・技」を歴史に関係なく、体感してもらいたいと考えました。第3室は、唐古・鍵遺跡の周辺の遺跡や纏向遺跡について触れ、唐古・鍵遺跡だけでなく、一体的に地域の歴史が動いていることを知ってもらうようにしました。

唐古・鍵遺跡は、弥生時代の首都クラスの遺跡で、本来は国が保存を進めても良いくらいです。その遺跡を人口3万人ほどの本町が30数年かけて、公園とミュージアムを一体的に整備してきました。今後は、町の誇りになるように活用が望まれます。



## 唐古・鍵考古学ミュージアムからのお知らせ

### 関連シンポジウム

### 唐古・鍵考古学ミュージアムリニューアル記念

## 「重要文化財指定 ～出土品が語る弥生世界～」

日時

6月10日(日)

午前10時30分～午後4時30分(予定)

聴講無料

場所

青垣生涯学習センター 弥生の里ホール

定員

700人(申込不要・先着順)

重要文化財に指定された、近畿・東海・北陸地域の豊富な弥生遺物から、各地に花開いた弥生文化の特色を考えます。

時間 午前10時35分～正午

特別講演会「弥生人の心を探る」

辰巳和弘さん(元同志社大学歴史資料館教授)

時間 午後1時～3時

基調報告

①「東海の至宝～愛知県朝日遺跡の出土品～」

宮腰健司さん

(愛知県埋蔵文化財センター副センター長)

②「北陸の至宝～石川県八日市地方遺跡の出土品～」

下濱貴子さん

(小松市にぎわい交流部埋蔵文化財センター参事)

③「大和の至宝～唐古・鍵遺跡の出土品～」

藤田三郎(町文化財保存課主幹)

時間 午後3時15分～4時30分

寺澤薫さん(桜井市纏向学研究センター所長)と講演者4人によるシンポジウム